

【 名古屋市農業センター de la ふぁーむ 】

名古屋市農業センターは、農業振興を図るため昭和40年4月1日に開設され、今年で50周年になります。

都市化の進展に伴い、農業の試験研究機関としての性格を変え、現在は「農」にふれあい、親しみながら理解を深めていただく、「野菜と畜産」がテーマの農業公園として利用されてきています。

園内には、地域の代表ブランド“名古屋コーチン”を始めとする各種ニワトリの鶏舎や、卵からひよこがふ化するシーンを見られるふ化展示室、牛や羊の放牧場があり、飼育する牛から搾った生乳でつくる「なごやか牧場」の牛乳やジェラートは、大変好評をいただいております。

また、園内の畑や温室では、野菜の栽培展示をしながら収穫体験などを行い多くの方にご参加いただいているほか、温室での花き展示とともに、全国有数の規模を誇るしだれ梅園は春先20万人を超える方に鑑賞いただいております。

- 1 開園 昭和40年4月1日
- 2 所在地 名古屋市天白区天白町大字平針字黒石 2872-3
- 3 敷地面積 約8.5ヘクタール
- 4 主な催事  
5月 ゴールデンウィークフェア  
11月 農業センターまつり“秋の収穫祭”  
2~3月 しだれ梅まつり
- 5 入園者数 655,219人（平成25年度）
- 6 主な施設
  - ・本館
  - ・農業指導館
  - ・園芸施設
    - 温室 9棟
    - ビニールハウス 2棟
    - 圃場 5,600㎡
    - しだれ梅園 5,000㎡
    - 宿根草園 1,000㎡
    - 竹林 4,000㎡
  - ・畜産施設
    - 牛放牧場 3,210㎡
    - 緬山羊放牧場 607㎡
    - 牛舎 3棟
    - 豚舎 1棟
    - 鶏舎 9棟
  - ・駐車場
    - 常時開場 190台（1か所）
    - 臨時駐車場 140台（3か所）
  - ・売店等
    - なごやか市場（売店） 1か所
    - ミルク工房 1か所（牛乳・ジェラートアイス）
    - レストラン 1か所
- 7 飼育家畜（平成27年1月1日現在）
  - ・乳牛（ホルスタイン） 12頭
  - ・ブタ 2頭
  - ・鶏
    - 名古屋コーチン 922羽
    - その他 226羽

- ・ヤギ 3頭
- ・ヒツジ 6頭
- ・モルモット 26頭 など

8 農業センター開園 50 周年

開園 50 周年の第 1 弾として、本年 2 月に『de la ふぁーむ』という愛称をつけ、名古屋市立工芸高校に壁画を描画してもらいました。

今後も、大学、高校、企業、各種団体等の協力を得て、様々なイベントを開催し、よりいっそう市民に親しまれ、農と出会い、楽しむことができる施設として取組んでいきます。

(主な開園 50 周年事業) ※イベント名は仮称です。

イベント名	概要	開催時期
愛称の制定	親しまれる愛称を制定	27 年 2 月
壁画	農業指導館壁面にアート塗装	27 年 2 月
しだれ梅まつり	恒例行事	27 年 2～3 月
ゴールデンウィークフェア	恒例行事	27 年 5 月
わくわく夏の収穫祭 2015	名古屋の農畜産物の紹介	27 年 7 月
ふれあい広場	天白ライオンズクラブと協働	27 年 10 月
農業センターまつり	恒例行事	27 年 11 月
いも煮まつり～でら☆ごっつお～	おいしい山形の紹介	27 年 11 月
まきば 100 人お色直し隊	牧柵の“お色直し”を実施	27 年 11 月

(参考) しだれ梅まつり・写真 (平成 27 年 3 月 13 日 (金) 撮影)





サトイモの苗を植える児童たち＝  
天白区天白町の市農業センターで

## 農と食育体験 始動

天白 農業センターで児童ら

野菜の種をまき、収穫して、食べるまで。子どもたちに、じつと農作業・食育の体験をしてもらう「キッズふぁーむクラブ」の結団式が十日、天白区天白町の市農業センターであった。センターの開園五十周年記念事業の一つ。地域の市民ボランティアらが農業指導をし、企業が食料を提供するなどの支援をする。半年がかりの官民連携プロジェクトが始動した。

参加するのは、天白区内の二つの子ども会。子どもたちに、じつと農作業・食育の体験をしてもらう「キッズふぁーむクラブ」の結団式が十日、天白区天白町の市農業センターであった。センターの開園五十周年記念事業の一つ。地域の市民ボランティアらが農業指導をし、企業が食料を提供するなどの支援をする。半年がかりの官民連携プロジェクトが始動した。

と、みんな笑顔を見せていた。小学六年の大島郁里さん（こと海理君）のきょうだいは、「野菜の苗を植えるのは初めて。育つのが楽しみ」とわくわくした様子だった。

キュウリが収穫できる七月には、かっぱ巻き作りに挑戦する。食品メーカー「浜乙女」

（中村区）が、のりを十一月には、山形県長井市から「長井100煮」を提供し、約五百人の子どもたちが「かっぱ巻き」を作る。

サトイモを収穫する会」のスタッフが訪

れ、郷土料理のいも煮を子どもたちと味わう。

（長田弘巳）